

注射用抗アルドステロン剤
水分・電解質代謝改善剤
劇薬・処方箋医薬品

2022年10月

カンレノ酸カリウム 静注用 100mg「サワイ」
カンレノ酸カリウム 静注用 200mg「サワイ」

沢井製薬株式会社
大阪市淀川区宮原5丁目2-30
TEL：0120(381)999

(注射用カンレノ酸カリウム)

使用上の注意改訂のお知らせ

この度、下記のとおり使用上の注意を自主改訂致しますので、お知らせ申し上げます。
今後のご使用に際しましては、下記の内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 改訂内容 (下線部改訂又は追加箇所)

改訂後	改訂前												
<p>【禁忌】(次の患者には投与しないこと) 4) <u>エプレレノン</u>、<u>エサキセレノン</u>又はタクロリムスを投与中の患者(「相互作用」の項参照)</p> <p>【使用上の注意】</p> <p>3. 相互作用 1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>エプレレノン (セララ) <u>エサキセレノン</u> (ミネプロ) タクロリムス (プログラフ)</td><td>高カリウム血症が発現することがある。</td><td>機序：これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	エプレレノン (セララ) <u>エサキセレノン</u> (ミネプロ) タクロリムス (プログラフ)	高カリウム血症が発現することがある。	機序：これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。	<p>【禁忌】(次の患者には投与しないこと) 4) エプレレノン又はタクロリムスを投与中の患者(「相互作用」の項参照)</p> <p>【使用上の注意】</p> <p>3. 相互作用 1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>エプレレノン (セララ) タクロリムス (プログラフ)</td><td>高カリウム血症が発現することがある。</td><td>機序：これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	エプレレノン (セララ) タクロリムス (プログラフ)	高カリウム血症が発現することがある。	機序：これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
エプレレノン (セララ) <u>エサキセレノン</u> (ミネプロ) タクロリムス (プログラフ)	高カリウム血症が発現することがある。	機序：これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。											
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
エプレレノン (セララ) タクロリムス (プログラフ)	高カリウム血症が発現することがある。	機序：これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。											

(裏面につづく)



改訂後			改訂前		
2) 併用注意(併用に注意すること)			2) 併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カリウム補給 カリウム保持性利尿剤 スピロラクトン トリアムテレン フィネレノン ACE阻害剤 カプトプリル エナラプリル リシノプリル 等 アンジオテンシンII受容体拮抗剤 ロサルタンカリウム カンデサルタン シレキセチル バルサルタン 等 アリスキレン シクロスポリン ドロスピレノン	高カリウム血症を誘発することがあるので、血清カリウム値を観察するなど十分注意する。	機序：これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。 危険因子：腎障害患者、高齢者	カリウム補給 カリウム保持性利尿剤 スピロラクトン トリアムテレン ACE阻害剤 カプトプリル エナラプリル リシノプリル 等 アンジオテンシンII受容体拮抗剤 ロサルタンカリウム カンデサルタン シレキセチル バルサルタン 等 アリスキレン シクロスポリン ドロスピレノン	高カリウム血症を誘発することがあるので、血清カリウム値を観察するなど十分注意する。	機序：これらの薬剤と本剤の相加・相乗作用による血清カリウム値の上昇。 危険因子：腎障害患者、高齢者

2. 改訂理由

相互作用相手薬との記載の整合を図るため、改訂致しました。

☆ 改訂後の電子添文につきましては、医薬品医療機器総合機構ホームページ(<https://www.pmda.go.jp>)および弊社の医療関係者向け情報サイト(<https://med.sawai.co.jp>)に掲載致しますので、併せてご参照下さい。